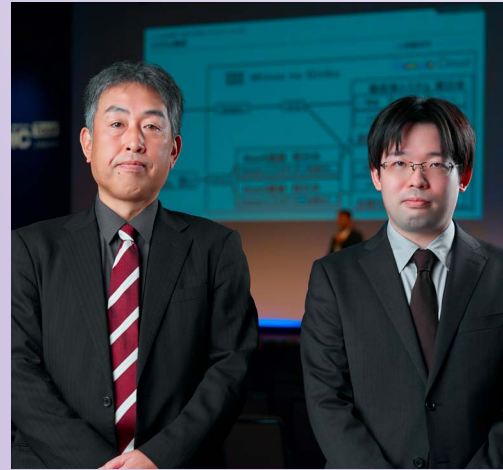


# DevSecOps プラットフォーム× ローカル LLM で セキュアな AI 活用を実現



開発ツールをGitLabに一本化し、標準化を実現  
国内閉域のローカルLLMでデータ主権を確保  
AIが組み込まれたDevSecOpsで品質とスピードを両立

株式会社日立プラントサービスでは、産業プラントや水インフラ、ライフサイエンス分野において、お客さまのデータから価値を創出し、デジタルイノベーションを加速するための、日立の先進的なデジタル技術を活用したソリューション・サービス・テクノロジーである「Lumada」を推進しています。

同社では、開発現場において、「人財強化」、「品質向上・維持」、「国内での情報管理」、「開発プロセス標準化」という4つの課題に直面していました。プロジェクトごとに異なるツールが乱立することで教育コストが増大し、セキュリティチェックの属人化による品質のバラつきも懸念されていました。また、生産性向上のカギを握る生成AI活用では、医療データや重要インフラ情報などの機微情報を扱う事業特性上、データを社外や海外へ送信することに強い懸念があり、導入の大きな足かせとなっていました。

「個人の生産性より、開発プロセス全体の底上げを優先しました。組織としてAI活用へ舵を切るための決断です」

二瓶 統 氏  
株式会社 日立プラントサービス  
経営戦略本部  
情報システム部課長

「セキュリティを後付けせず開発プロセスに組み込み、真のDevSecOpsを実現できます」

鈴木 壮史 氏  
株式会社 日立システムズ  
金融事業グループ  
金融DX事業部 第一本部  
DXサービス部 第一グループ

## 株式会社日立プラントサービス

業種  
建設業

規模  
1,614名  
(2025年3月31日現在)

本拠地  
東京都台東区

## 株式会社日立システムズ

業種  
システム構築事業

規模  
10,520名  
(2025年4月1日現在 単独)

本拠地  
東京都品川区大崎

ソリューション  
GitLab Ultimate/  
GitLab Duo Enterprise

同社は、これらの課題解決に取り組むため、開発基盤にGitLabを選定。開発の最適化とAI活用、情報管理の徹底という3つのポイントを重視し、担当者個人の生産性向上に加えてプロセス全体を最適化し、さらに機微情報の海外流出を確実に防げる仕組みであることを評価しました。パートナーに選定したグループのITサービス企業である株式会社日立システムズは、統合運用サービスで培ったノウハウをGitLabへと展開し、次世代型の開発基盤を構築。開発現場で利用されていた複数のツールをGitLabへと一本化しました。こうして開発プロセスの標準化を図るとともに、教育コストを低減し、組織全体でスムーズにノウハウを共有できるようになりました。

中でも、高度なセキュリティ／コンプライアンスを備えながら、先進的なAIを活用できるようにしたアーキテクチャはグループ内外で高く評価されました。新たな開発基盤は、国内リージョンのAWS環境でSelf-Managed版のGitLabを稼働させ、生成AIのClaudeと連携しています。これにより、パブリッククラウドを使ってもデータを国内にとどめ、セキュアな状態で活用できるローカルLLM環境を実現しました。さらに、GitLabのAI機能であるGitLab Duoを採用し、高い機密性のもとでコードレビューの自動化やコード提案、チャット機能による開発支援が可能になりました。CI/CDパイプラインには自動セキュリティスキャンを実装。AIとDevSecOps環境を最大限に活用することで、開発スピードを高めながら脆弱性を早期発見できるようになったのです。

今後は、AIコーディングを開発ライフサイクル全体へと本格導入し、開発者の負担軽減と組織全体の生産性を大幅に向上させる計画です。大切なのは、単なるツールの導入で終わらせないこと。現場の要望に合わせて環境設計を行い、定着化に向けた勉強会や問い合わせ対応などの運用支援を含め、組織に新しい文化を浸透させながら、開発現場のモダナイズを進めていきたい考えです。

両社は、この新たな開発基盤の成功をグループ全体へと横展開し、高品質なデジタルサービスを通じて、お客さまとの価値協創をさらに加速させる方針です。

**ツールの乱立による非効率や  
属人化を排し、機微情報を守り  
ながらAIを活用できる安全な  
開発環境が必要だった。**

※本内容は2025年11月当時の情報をもとに制作しております。

# Ready to get started?

無料で試してみる

価格 >  
お問い合わせはこちら >

